JNFEAニュースレター

Japan Nepal Female Education Association

認定NPO法人 日本ネパール女性教育協会

2015.5.20　No.19

—目次—

・ネパールの大地震について…… 2
・第8期卒業生に贈る言葉 …… 3
・第8期卒業生名簿・赴任先 …… 5
・卒業生の抱負…… 6
・卒業生たちの赴任地訪問報告（ピュータン郡、パルパ郡） …… 8
・訪問授業2015報告…… 9
・バリジュー先生とデュルガ夫人の日本滞在記…… 12
・第4回交換留学生スジャータ・アチャリアの小学校、幼稚園実習感想 …… 13
・JNFEAを支援してくださっている団体のご紹介 …… 14
　全国退職女性校長会（梅の実会）・国際ソロプチミスト大阪—いずみ…… 15
・さくら寮卒業生たちの現状…… 15
・Topics & News …… 18
・ネパールあれこれ—教員採用について（続） …… 19
・理事会コーナー…… 20
・JNFEA 活動報告　さくら寮通信 …… 20
・寄附金の記録　…… 22

第８期卒業生が巣立ちます

第８期生の巣立ち

５月24日、第８回目の卒業式が行われる予定でしたが、4月25日に起きた地震のため延期となりました。10名の卒業生たちは、自分の郷里の小学校の先生になります。２年間さくら寮で生活し、カニヤ・キャンパス・ポカラで教育学について学びました。また、日本から多くの先生たちが訪問し、音楽、絵画などの情操教育の教え方や、算数、学級運営、保健などについての指導方法などを学びました。卒業生はこれらの貴重な経験を活かして、村の「おなご」先生として、力を発揮してほしいですね。

ネパール大地震について

去る2015年4月25日午前11時56分（日本時間同日午後3時11分）ごろ、ネパールの首都カトマンズ北西77キロ、ポカラの東73キロを震源とする地震がありました。地震の規模は、マグニチュード7.8、震源の深さは、約15キロという大きな地震でした。

すぐに、さくら寮寮母マンジュさんに電話したところ、「寮生は無事、建物も大丈夫」と緊張した声で返事がありました。寮生たちは、土曜日で学校はお休み、寮で朝食後ゆっくりしていましたが、大きな揺れにびっくりして、泣き叫び、マンジュさんの周りに集まり、玄関前の広場に逃げたとのことでした。その後も余震が続き、マンジュさんの発案で、夜は１階の広間に布団を持ち込み、雑魚寝をしていたそうです（29日まで)。幸いなことに、今のところ寮生たちの実家に被害があったという情報は入っていません。マンジュさんは、25日に1週間分の食料を買いためたそうです。我がさくら寮寮母の沈着な対応に感謝！

ネパール大地震義捐金のお願い

認定NPO法人日本ネパール女性教育協会理事長　山下泰子

去る4月25日のネパール中部を震源地とするマグニチュード7.8の大地震は、日を追うごとに被害が広範囲にわたり、全国75郡のうち22郡におよぶことがわかってまいりました。皆さまからは、地震の発生とともに続々お問い合わせと暖かなご支援のお申し出をいただき、まことにありがとうございました。

幸い、さくら寮と寮生20人は、無事でございました。ひとつには、さくら寮が竹中工務店有志のボランティアグループAAFの設計･管理でつくられ、基礎工事もしっかりしており、鉄筋も十分入っておりますことと、ポカラが震源地西方にあたり、影響が比較的少なかったことによります。他方、寮母マンジュさんの適切な対応により、寮生は、2階や3階の個室から1階のロビーに集まり、余震の不安な夜を一緒に過ごすことができたのも、心強かったことと思います。さらには、さくら寮には、1週間分の食料備蓄もあり、この点でもパニックにならずに済みました。

しかし、連絡網で確認いたしますと、人的被害こそ報告されてはまいりませんが、卒業生やさくら寮関係者の郷里の家が被災しており、ゴルカ郡、ダーディン郡、ピュータン郡など、家屋の全壊・半壊・倒壊などの情報が伝わってまいりました。卒業生の勤務する小学校も、かなりの被災が予想されます。

JNFEAといたしましては、なお一層情報の収集に努め、被災したさくら寮卒業生・関係者および勤務校にいくばくかの義捐金を差し上げたいと存じます。

もし、ご賛同いただけましたら、下記の要領で、NPO法人の口座にお振込みいただきますようよろしくお願い申し上げます。　　2015年5月1日

記

１．振込み先
　郵便振替　00130-4-370983　NPO法人日本ネパール女性教育協会
　「ネパール大地震義捐金」と書いてください。
２．金　額　　1口2,000円（何口でも可）
３．期　間　　2015年5月1日～ 7月31日
４．領収書の発行　私どもは認定資格を持っておりますので、ご寄付につきましては、税金控除対象になる領収書を発行いたします。
５．義捐金は、JNFEA理事（5月：山下泰子・新井場貞子、7月：岩谷栄子、8月：山下威士）がさくら寮訪問時に、責任を持って配布いたします。
６．問合せ先　T/F:03-3922-0476, E-mail:yyyasuko@nifty.com　　以　上

第８期卒業生に贈る言葉

山下　泰子　　認定 NPO 法人日本ネパール女性教育協会理事長

皆さん、ご卒業まことにおめでとうございます。

私は、ご卒業の皆さんへのはなむけに、２人の若い女性の国連演説を贈りたいと思います。一人は、ノーベル平和賞を受賞したマララ･ユスフザイさんです。タリバンに至近距離から銃撃され、奇跡的に一命を取り留めたマララさんは、2013年7月12日、16歳のお誕生日に、国連本部で演説し、「世界の無学、貧困、テロに立ち向かいましょう。本とペンをもって闘いましょう。それこそが、わたしたちのもっとも強力な武器なのです。ひとりの子ども、ひとりの教師、一冊の本、そして一本のペンが、世界を変えるのです。教育こそ、唯一の解決策です。まず、教育を」と述べ、世界中に感動を与えました。

もう一人は、「ハリー・ポッター」という映画で、印象的な演技をしたエマ・ワトソンさんです。国連の新しいプログラム「He For She」の親善大使になった彼女は、2014年９月20日、「このスピーチをするにあたって感じてきた緊張と迷いの中で、ずっと自分自身に堅く言い聞かせてきたことは、私でなければ、一体誰が、そして今この時でなければ、一体いつ声を上げるのか、ということです」と述べました。

さあ、皆さん、あなたの使命は、ふるさとの村へ帰って、無学や貧困と闘うために、愛情をもって子どもたちを教育することです。それは、他の誰でもないあなたが、今この時に取り組まなければならないことなのです。さくら寮で学んだ誇りを胸に、良い「おなご先生」になってください。

Surendra B.Bharijoo （スレンドラ　B．バリジュー）さくら寮運営委員会委員長

皆さんの教員活躍の成功を祈って

このさくら寮KCPプロジェクトのさまざまなところから来ている第８期生皆さんは全員、２年間の勉強と教育実習を完了したこと、おめでとうございます。今回卒業する皆さんは、トレーニングもいろいろ体験できて、沢山のことを身につけて完璧な小学校の先生になれることを信じます。

これからは、皆さんが自分のふる里に戻って教育のために頑張ってくれることを期待しています。皆さんは、自分のところで経験すること、良いこと、大変なことについても想像できていることと思います。皆さんが、自信を持って、自分の故郷で活躍することを期待します。皆さんが自分のところで汗を流してくださることは、国のためにもなります。このおかげで将来に満足できることになることはまちがいありません。このプロジェクトは、皆さんへ大きなチャンスを与えています。このチャンスを捕まえて欲しいです。

この前に卒業して帰った先輩の皆さんも、自分のところで努力していることの話などは、時々耳にはいります。赴任先訪問に行かれたJNFEAのメンバーの方から、このような話を聞いて嬉しく思います。今回の皆さんも、先輩の皆さんのように頑張って欲しいです。皆さんが、３年間教えたら素晴らしい人材が生まれると思います。自信がつくことと思います。コミュニティでも、皆が認めてくれて良いリーダーになることはまちがいありません。このことを信じて欲しいです。最後になりますが、みなさんの健康と成功をお祈りいたします。

Keshab Sharan Parajuli （ケシャブ　シャラン　パラジュリ）KCP 教育学部長 / さくら寮運営委員会委員

人間の考え方を良い方向へと変えることができるのは、教育です。

これは、人間が生きているかぎり続きます。教育は、人間のために、知恵を高め、技術を身につける、物事を深く考える、マナーが良くなるという役わりがある。教育は、太陽のように明るくて、風のように強いです。教育のおかげで、人生から世界まで開発します。教育で、文明が発達します。古い考えがなくなり新しい考えを生み出します。教育のこの大切さを理解してもらって、ネパールの西部の僻地にいる、経済的に貧しいけれど、勉強したい少女たちに教育を受けさせて、女性教育のために力を入れることに、このJNFEAと一緒になって、PKRプロジェクトが頑張ってきています。このプロジェクトのためには、山下泰子理事長を含めてJNFEAの皆さんへ心から感謝します。それとこのプロジェクトを継続することを期待します。

この寮にいて2年間の勉強を終えて故郷に帰る8期生の皆さんへ、おめでとう。皆さんは、ここで学んだことを、村の子どもたちに、今まで先輩たちがやってきたよりももっと有効に利用してくれることと期待します。仕事の際に発生する困難なことなど乗り越えて努力することを信じています。そのように女性教育のために皆さんが努力して欲しいです。皆さんの成功をお祈りいたします。皆さんの健康や発展、成功をもう一度お祈りします。

Durga Raj Regmi （ドルガ　ラジュ　レグミ）KCP 教育学教授

さくら寮とKCPが一緒になって行っているこのプロジェクトは、西ネパールの極西部や中西部の僻地に住んでいて学校へ行くチャンスのない女の子に学校へ行かせることを目的としています。思ったとおりの目標も成功していることが耳に入っています。

女性に力をつけるために行っているこの活動は、80人の女子に＋１と＋２の質の良い教育を与えました。ここで学べたことを、皆さんが自分の村に運び広めるために努力してもらっています。この2015年も、10人の女子が卒業して地元に帰ります。ここで2年間の勉強を終えたこと、本当におめでとうございます。皆さんのすばらしい未来をお祈りいたします。ここで勉強したことを心に留めて、村に行ったら教育のチャンスの少ない子どもを学校に行かせる環境を作るためにがんばってもらいたいです。今の状態よりもっと良い方法で、子どもに教えることにも、力を入れてくれるように期待します。3年間一生懸命頑張って教員をすると、「10人に一人」が日本へ留学のチャンスもあります。

皆さんが、いつもお互いに頑張って仕事をし、成功するように願います。皆さんが、田舎に帰ったら、そこの困難な環境を変えて、子どもが勉強できるようにして欲しいです。学校に行って子どものことを理解しながら、優しく教材を利用して教えてください。皆さんがパーマネントの先生になったこと、仕事に大成功したこと、村を変えて発展させたことのニュースを期待しながら・・。

Humakanta Pande （フマカンタ　パンデ）KCP ネパール語教授

さくら寮に滞在しながら＋２までの勉強終えて故郷に帰ることになった皆さん、成功する未来をお祈りいたします。おめでとうございます。教育環境の近代的な変化がまだ整ってない僻地から PKR の町まで来て、質の良い先生になるために、皆さんは、チャンスをもらったね。ここで身に着けた教育を、その田舎に帰って利用してくれること期待しています。そのために皆さんの故郷が待っている。2 年間の間に、この寮に入ったときは何も知らなかった皆さんは、ここで色々と学べました。この世界にまったく慣れてなくて緊張していた皆さんは、自分の努力で沢山成長しました。

さまざまなところから来て、いろいろな環境の仲間とも沢山学んだと思う。それで大いに自信を持つようになったと思う。皆さんは、このような貴重な時間を得ました。このような素晴らしいチャンスを与えてくれた側の気持ちを忘れずに、大事にしながら、期待に応えるように、目的地で努力して、良い成果を出し、成功できるようにお祈りいたします。

Krishna Khatiwada （クリシュナ　カティワダ） JNFEA 現地マネージャー / さくら寮運営委員会委員

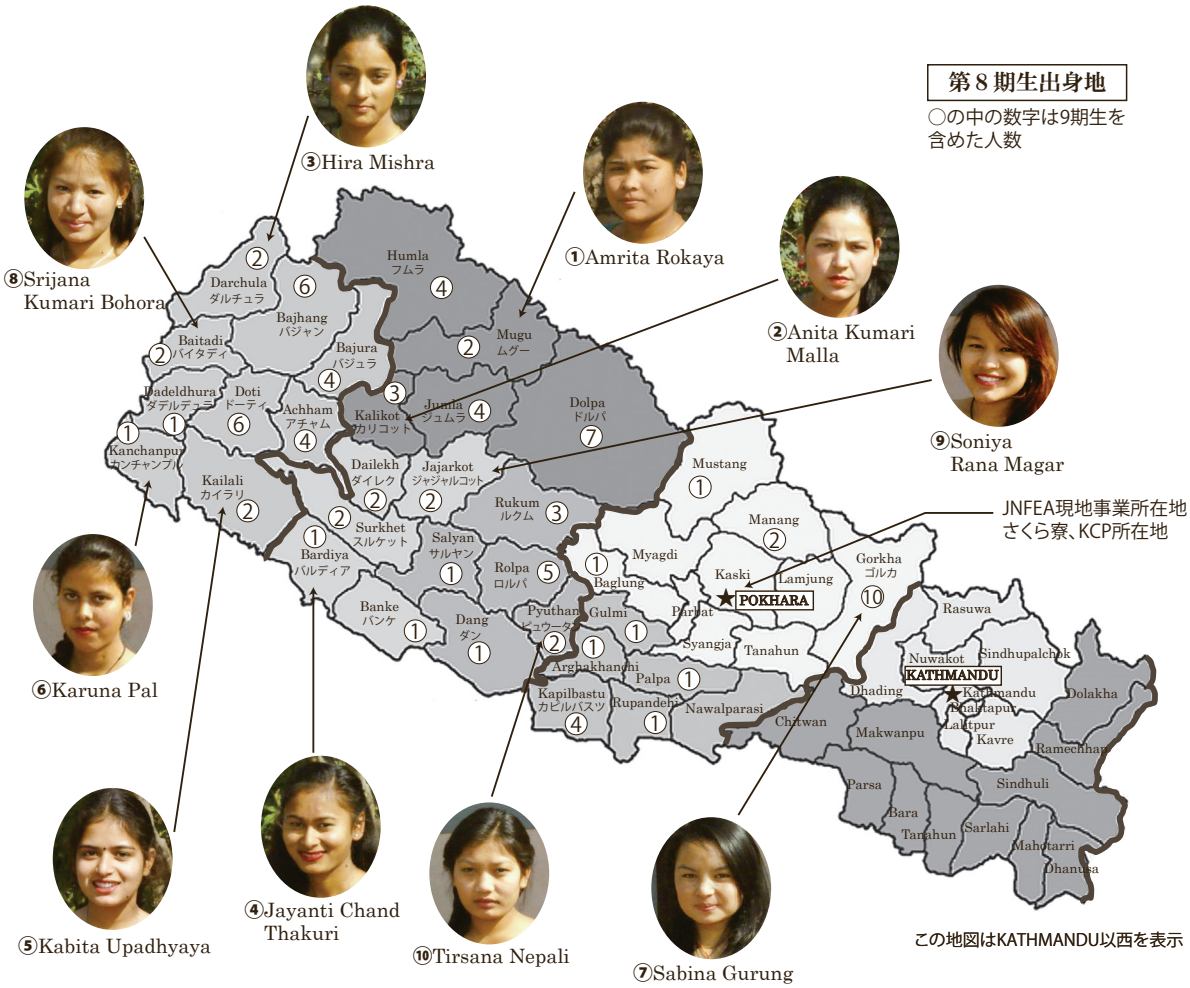
今回卒業する皆さん、おめでとうございます。ここで学んだことを自分の故郷にもって行って広めてください。自分のところで頑張ってくれれば、有名になります。学校に行っていない子どもに学校に連れて行くことを考えたり、クラスを明るくなるように教育をしてください。教える先生は、もっともっと勉強しなければなりません。子どもの才能を捜してそれを引き出す人は、先生です。子どもの香を嗅いで、その蕾を花に咲かせることは、先生の仕事です。さくら寮で学んだことを、現地の皆に伝えて欲しいです。皆さんが心からJNFEAの期待に答えてくれることを信じます。自分の責任をきちんと果たして、子どもに愛情を与えて、優しく、愛し、丁寧にその子どもたちの友人になって、教えてください。成功することをお祈りします。

Manju Dhoju （マンジュ　ドージュ）さくら寮寮母 / さくら寮運営委員会委員

教育のチャンスがない村の小さい子どもを、学校に行かせる目的で設立されたこのプロジェクトのもとで、勉強して卒業する皆さん、おめでとうございます。村の教育問題を解決するのは、皆さんがリーダーになって活躍をしてくれることです。皆さんが、ここにいてKCPで学び、日本から来てくださった先生からも学べました。このように勉強した知恵を村に運んで、その環境に合うように考えて成功させることと信じます。このプロジェクトに関係する日本側もネパール側も、皆さんに期待をしています。これから３年間だけではなく、一生この教員の仕事を目標にして続けてくれることを期待しています。

卒業生名簿・赴任先

SN	Name	Date of Birth	Addrees	School
1	Amrita Rokaya	22/09/1996	Mugu	Shree Nepal Rastriya Secondary School,
2	Anita Kumari Malla	30/04/1996	Kalikot	Shree Kalika Higher Sec. School, Simkot
3	Hira Mishra	28/06/1993	Kalikot	Shree Hunainath Sec. School , Devthali
4	Jayanti Chand Thakuri	03/12/1997	Bardiya	Shree Amarjyoti Higher Sec. School, Bardiya
5	Kabita Upadhayaya	25/10/1996	Kailali	Shree Saraswati Sec. School , Durgauli
6	Karuna Pal	17/05/1997	Kanchanpur	Shree Shanti Niketan Higher Sec. School, Aithpur
7	Sabina Gurung	28/10/1996	Gorkha	Shree Buddha Sec. School, Philim
8	Shrijana Kumari Bohora	23/10/1997	Baitadi	Shree Mathairaj Sec. School, Hadakot
9	Soniya Rana Magar	27/10/1996	Jajarkot	Shree Bageshwori Sec. School,Jajarkot
10	Tirsana Nepali	16/04/1996	Pyuthan	Shree Kalika Primary School, Bijuwar



卒業生の抱負

①Amrita Rokaya（アムリタ　ロカヤ）[Mugu]

さくら寮で勉強できる機会を作っていただいた、JNFEAの皆さんへ感謝します。Mugu郡のような僻地に生まれた私は、ネパールの美しい町ポカラに滞在でき、KCPで勉強ができて嬉しいです。私の目的を果たすことができました。遠い国日本から色々な専門の先生方に来ていただき、沢山のことを教わりました。先輩の皆さんや、お母さん代わりの寮母のマンジュさんからも、沢山学びました。大変な状態の家庭に生まれましたが、このようなチャンスをいただき、私の人生は明るくなりました。２年間勉強したことを、自分の村の恵まれない子どもや女性のために役立てたいです。お世話になったバリジュー先生やクリシュナさん、KCPの先生にお礼を申し上げます。理事長の山下先生、この１０年間のプロジェクトに関係する皆さんにもう一度感謝します。

②Anita Kumari Malla（アニタ　クマリ　マラ）[Kalikot]

人生は旅と言われます。その途中で、私はさくら寮に入れていただいてよかったです。Kalikot郡のような不便なところに生まれた私は、この美しいところにあるKCPで勉強できて嬉しいです。この２年間で日本の先生から、歌、音楽、ピアニカなど学びました。子どもへどのように教えるのか、楽しく学ぶという教え方も勉強でき、貴重な時間をもてました。僻地の女性への教え方もいろいろ学びました。皆さんから学んだことを、村に帰って生かし、村の人や子どもの考えも変えたいです。良い先生になってJNFEAの期待に応えます。マンジュさんや寮の皆さんにお世話になりました。JNFEAの山下先生はじめ、皆さん、KCPの先生方、クリシュナさんにもお礼を申し上げます。

③Hira Mishra（ヒラ　ミシュラ）[Darchhla]

教育は、妊娠中から始まって死んだときに終わります。Darchula 郡のような辺鄙な郡に生まれた私は、このような素晴らしいところに入って、勉強できたことは、本当に嬉しいことで、ラッキーと思います。１０年生まで勉強したときは、教育の大切さが分かっていませんでした。寮に入ってから、教育は、人生の歩く道を開けてくれることを、初めて分かりました。私たちのためにここまでやってくださっている山下先生やその他の皆さん、寮母さん、KCP の先生方から教わったことを大事にします。学校ではきちんと教えて良い先生になりたいです。JNFEA の期待に応えます。寮の皆さんを含めて先生方にもお礼を申し上げます。

④Jayanti Chand Thakuri（ジャヤンティ　チャンド　タクリ）[Bardiya]

ひとつのつぼみが花になるためには、水や肥料や良い環境が必要です。ひとりの子どもの人生を良くするためにも、教育や技術や良い環境が必要です。教育は、とても大切です。いくら受けても足りません。ここの寮で日本の先生が、ピアニカ、歌、算数、指導方法を教えてくださいました。寮に入っていなかったら、このようなことを学ぶチャンスは絶対になかった。ですからこの寮に入れたことは、とても嬉しくラッキーでした。以前は、このように学ぶチャンスがあって、田舎へ帰って先生になれるとは思ってもいませんでした。先生というのは、暗いところにいるものを明るいところへ導く人です。ここで学んだことは、私のためにいつも役にたち、人生を前に行かせるきっかけになります。とくに寮母さんにお礼を申し上げます。家にいるのと同じようにしてくれ、優しくしてくださいました。他にもいろいろ彼女から学びました。勉強のために良い環境を作ってくれました。いくらお礼を言ってもたりません。JNFEA のみなさん、KCP の先生方、バリジュー先生とクリシュナさんにもお礼を申し上げます。

⑤Kabita Upadhyaya（カビタ　ウパダヤヤ）[Kailali]

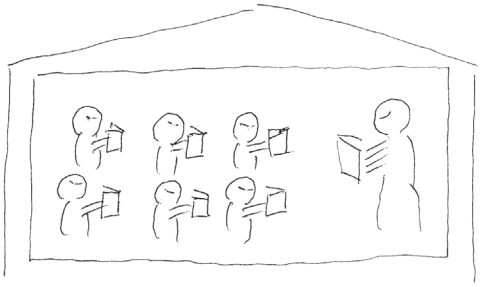
このような美しいところに住んで勉強できたことを、大変嬉しく思います。ここの２年間楽しかったです。KCP の先生方や JNFEA の方々は、いろいろと教えてくださいました。マンジュさんからも、沢山学び、優しくしていただきました。村に帰ったら、子どもたちや女の人たちに、ここで学んだことを教えます。女性の健康のことも教えたいです。今までお世話になった山下先生、バリジュー先生、KCP の先生方、マンジュさん、クリシュナさん、寮の後輩や同級生に感謝をいたします。

⑥Karuna Pal（カルナ　パル）[Kanchanpur]

さくら寮に入って教育を受けることができ、本当によかった。このような美しい町で勉強でき、大変嬉しいです。教育の大切さを理解でき、人生で何かをしなければならないことを感じました。そのためには、教育が大事です。人生は長い旅です。この旅には、問題もでてきます。それを乗り越えなければなりません。日本から来てくださった先生方が、沢山指導してくださいました。子どもが真剣に勉強に取り組むように教える方法も学べました。この素晴らしい方法で､子どもに教えたいです。頑張って JNFEA の期待に応えます。ここで学んだことは、村に帰っても大変役にたちます。

⑦Sabina Gurung（サビナ　グルン）[Gorkha]

先ず JNFEA の皆さんへお礼を申し上げます。人生は、とどまることなく流れている川と一緒です。大変なところに生まれても、チャンスがあってポカラのようなすてきな所で勉強できました。JNFEA が私たちに良い教育を与え、教員にさせてくださったことは、本当に感謝しています。私は、ここで自分の人生をひらいてくれる教育を学ぶことができ、自分の目的に向かって歩くことができたと思います。ここで学んだことを村に帰って広めたいです。遅れているところの皆さんを、明るい道へ引っ張りたいです。最後に、いつもお世話になった寮母さんはじめ、KCP の先生方とクリシュナさんにも感謝をいたします。



⑧Shrijana Kumari Bohora（シュリジャナ　クマリ　ボホラ）[Baitadi]

教育は、生まれてから死ぬまで続くことです。この教育を受けるのには、大変な戦いをしなければなりません。私も、チャンスがあってここで２年間学べました。ここまでお世話になった JNFEA の皆さんへ、心からお礼を申し上げたいです。ここで沢山良い教育を学ぶチャンスがあったことや、教員になれるようになったことは、本当にうれしいことです。ここで２年間学んだことを自分の村で広めたいです。子どもには優しく教えること、楽しみながら教えること、課外教育や教科書以外のことなど、沢山教える必要があります。教育を受けるチャンスのなかった女性にも、良い方向へ教育したいです。男女間の差別もなく、村全体を変えるために努力します。JNFEA の期待に応えるようにします。このような素晴らしいチャンスを与えてくださり、この２年間お世話になった寮母さん、KCP の皆さん、バリジュー先生やクリシュナさんにもお礼を申し上げます。

⑨Soniya Rana Magar（ソニヤ　ラナ　マガール）[Jajarkot]

教育は、人間が生まれてから死ぬまで続くことです。これは、人生の良いポイントでもあります。このようなチャンスをうまく利用すれば、人生は成功します。２年間私は、JNFEA の経営するさくら寮に滞在して、勉強できました。場合によっては、教員になるこのコースで勉強する者を、批判されることもあるそうですが、私は、教員になれることを大変嬉しく思っております。ここに入れなければ、このようなチャンスはなかったと思います。JNFEA の皆さまへお礼を申し上げます。マンジュさんはじめ、KCP の先生方に感謝します。皆さんの期待に応えて努力します。本当にありがとうございました。

⑩Tirsana Nepali（ティルサナ　ネパリ）[Pyuthan]

先ず JNFEA の皆さんへお礼を申し上げます。皆さんのおかげで、私は、この寮で２年間勉強ができました。寮と KCP の教育で、私はいろいろ勉強ができました。ここで本当に良い勉強ができた。JNFEA の先生が、寮に来て沢山教えてくださいました。子どもたちに良く教える方法など教わりました。田舎に帰ったら、私も、質の良い教育をやりたいです。最後に JNFEA の皆さん、KCP の先生や学長先生にお礼を申し上げます。同級生のみなさん、後輩の皆さん本当にありがとうございました。

卒業生たちの赴任地訪問の報告

2月10日～13日　　吉田英子理事、中野ますみさん、そして卒業生のラルマヤ・ブダさん（2期生）とラクシミ・デブコタさん（5期生）たちとクリシュナさんの5人は、ピュータン郡とパルパ郡を訪問しました。

・10日：ピュータン郡。ここには、7期生のビパナさんが働いています。女性校長はじめ、全校生徒が歓迎してくれました。ラルマヤによるパネルシアターの上演に生徒たちが呼応して楽しく過ごしました。5人の合唱「さくら　さくら」に対し、生徒代表の女の子が、「家畜の世話や草刈りの仕事があるので、学校には行けない」という歌を歌ってくれました。その後、ビパナの算数の授業を参観。授業後、生徒たちに説明するときは、左右方向だけの移動でなく、縦移動もしながら生徒たちの様子を観察することを指導しました。

吉田さんの指導で、「カルタつくり」と遊び方を指導。ラルマヤとラクシミが活躍しました。

ビパナは、朝5時に起床、6時15分に大学へ行き、9時まで勉強。家に帰り食事を済ませて、学校へ行くという生活だそうです。

生徒数は、女子248名、男子209名。近くに私立学校ができて、人数が減っているとのこと。

・12日：途中、スジャータの村、カピルバスツー郡を通るので、彼女の母親と学校を訪ねた。10時、パルパ郡の1期生サムジャナが働く学校を訪問。標高1745mのところにあり。山全体が一つの町になっている美しいところです。インド大使館や韓国のNGOの支援も受けている学校で、1~12年生まで900人の生徒がいるとのこと。「OKバジ」と呼ばれている垣見一雅さんや、星野富弘さんの支援で作られた図書館などがあり、

規模の大きな学校でした。

サムジャナは、政府採用の教員試験に受かり、パーマネント・ティーチャーとして採用されています。生後9か月になる男児を連れての勤務ですが、彼女の授業中は、手の空いている先生たちが面倒を見てくれているとのこと。7年生の理科の授業を見学。森林破壊の原因と影響について、教科書を読みながら進めていましたが、生徒たちにも読ませたり、まとめを書かせたりして指導法を工夫している様子がうかがわれました。

吉田さんの指導で、「カルタつくり」と、ラルマヤ指導の風車の折り紙を指導。子どもたちも喜んでいました。ネパールの教科書は、中身が豊富で、1年間の教育内容が非常に多いため、ゆっくり教えることが、難しいようです。この村では、女子の幼児婚が問題だと言っていました。

・13日：ポカラへの帰途につく。　　（吉田英子理事の報告書から）

訪問授業2015報告

「性の教育」の授業と「音楽」の授業　　2月9日～18日にかけて、実施。

①「性の教育」　　**今村美知子**

「性の教育」の授業は、4時間実施しました。私自身は、ネパールに出発する5日前に、凍った道で滑って、足首骨折という事故に遭いましたが、医師より、「ギブスをするので、行けないことはない。」と言われて、ギブスを付けたまま出発し、無事授業をしてきました。

・1時間目は、【大人に近づく心と体】
・2時間目は　【赤ちゃんはどこから?】
・3時間目は　【小さな卵からの成長】
・4時間目は　【エイズ】【チャウバティ】について。

「性の教育」は、ネパールの教科書にも扱われているということですが、その授業をする教師がいないため、科学的に正しく理解している学生は、ほとんどいないようでした。

生殖の仕組み、命の誕生、出産。

看護師・助産師・夫の3人が登場して、出産風景の学習。生まれたての赤ちゃんを想定した2900gの新生児人形、首のすわっていない赤ちゃん人形を、一人一人がだっこしました。なんだかとてもうれしそうでした。エイズの授業では、エイズは自分で予防できる病気であるということ、感染経路や予防方法などの学習をしました。

避妊・病気予防のためのコンドームについての学習もしました。その中で、ポカラでは、病院に行くと、コンドームが無料でいただけるということを聞き、どこの病院でもそうなのか、調べる必要があると思いました。ネパール中だとすると、すばらしいことだと思います。

チャウバティについても、学生たちに聞きました。1昨年は、ほとんどの学生が、チャウバティ経験者でしたが、今年は、3人の学生の村で行われているだけでした。ただ、これは、地域差によるのかもしれません。チャウバティはなくても、生理中は、ご飯は作ってはいけないとか、神様のいる部屋には入れない、水道を使ってはいけないなどの差別があることがわかりました。学生たちは、この授業を受けたことで、これらはすべて古い慣習であったと理解できました。そして、村に帰ったら、これらをみんなに伝えなければならないと思ったようでした。

授業後の感想文には、「知らないことをたくさん教わった。このような教育は、私たちは知っておくべきだと思った。」「村に帰っても、恥ずかしがらずに、みんなに教えたい。」「村にあるチャウバティを何とか無くしたい。」「エイズにうつらないようにするにはどうしたらいいかもわかりました。」「自分のことは自分で守らなければいけない。」などなど、たくさんのことを書いてくれて、骨折をおして行った甲斐があったというものです。

②音楽教授法　　**今村　務**

ネパールの子どもの歌を音符にしたり、外国のきれいな歌をネパール語にしたりして、昨年作ったテキス

トを使って授業を行いました（そのテキストには、リズムや音の学習方法・楽器の種類・鍵盤の説明等も含まれています。）。

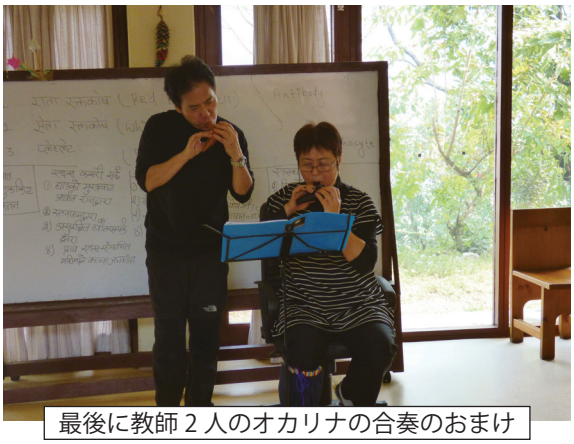
さくら寮の12年生は、昨年音楽の授業を受けていますが、11年生は、初めての音楽の授業です。でも、今年は、昨年習った歌を12年生が11年生に教えておいて欲しいと、お願いしてあったので、その成果を感じることができました。

ビートとリズムの導入・四分音符等々の音符のドリル・16分音符の導入・ソルミゼーションの説明・ドローンとカノンの練習・レターサイン・5線譜の導入と実践・ピアニカの説明と運指法の説明、易しい曲での練習等々を行いました。最後には、さくら寮にあるキーボードで、モデル演奏を聴いてもらいました。

まずは五線譜を縫って作ることから

音楽は、トレーニングの時間が必要です。毎年同じようなカリキュラムではありますが、積み重ねのトレーニングの成果は確実に感じることができます。音楽の授業も他の教科と同じように順序を踏んで指導し、楽しく学ぶことが大切であるということが伝わってほしいと思いながら授業を進めています。

授業後の生徒たちの感想：「子どもに、どのように音楽や歌を教えればいいのかを教えてもらいました。」「子どもに教えるときは、楽しく教えるようにするということを学べました。」「ピアノを弾くところを見られてうれしかった。」「ビートやリズムというのがあることがわかりました。」「ネパールにある音楽や歌を大切に残すべき、忘れてはいけないということを学びました。」 ネパールには、生活の中に歌と踊りがあり、自然な声で歌う歌と踊りは、本当にすばらしいと思います。その文化を大切にして欲しいと、切に願っています。


最後に教師２人のオカリナの合奏のおまけ

ゲーム遊びも

「ジェンダーについて考えよう」（2月8，9日、合計5時間の授業） **吉田英子**

①まず、生徒たちに、「女性に生まれてよかったですか？」「女性に生まれてソンをしたと思ったことや男性と違う扱われ方をして悔しいと思ったことがあるか？」どうかを、聞くことから始めました。前者の質問に対しては、肯定的な答えが多く、後者の質問に対しては、「ない」と答えたのが、ほとんどで、意外であった。また、「女らしさ」「男らしさ」とはとの問いには、「女は、我慢強い、恥ずかしがりや、自信が持てない、家にずっといて、どこにも行かない、他人が困っているのを気にする、新しいことをするのに躊躇する、目上の人と話せない」等々。「男は、大きなことができる、自分のしたいことができる、家の仕事をしないでいい、」等々、ジェンダー規範にとらわれた女性像、男性像に偏っていた。

そこで、「女性差別撤廃条約」解説を通して、区別と差別の問題、性別役割分業について話し合い、考えてもらった。

②2014年のノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんの国連演説から、女子が学校に通うことの効果を考えた。**「世界子供白書」、「リプロダクティブヘルス/ライツ」、「児童の権利に関する条約」**にも触れ、実際に子どもたちの前に立つ教師として、押さえておかなくてはならないことを一緒に考えた。教科書に書かれていることを知識として教えるだけでなく、教師の持つジェンダー観が子どもたちに多大な影響を与えてしまうことを伝えた。正規のカリキュラムとは別に、暗黙のうちに、また無意識のうちに伝えられてしまう**「隠れたカリキュラム」**が、子どもたちにジェンダー・バイアスを再生産していくことになると伝えた。男女別の名簿・呼び方、男女別の座席・並び方、子どもたちへの声掛け、遊び方など、学校における様々な場面で、ジェンダーに敏感になることの大切さを理解してもらった。

③授業の感想としては「男女差別がある。この勉強は効果的です。男が強い、女が弱いと思うのは差別です。習慣をなくす必要があることを教わったが、私もそう感じたことがある」、「男女差別をなくす良い方法を授業で学べた」、「人間には問題がある。男女差別がある。これは影響が大きい。これをなくす必要があるというのが分かりました」、「男女差別のことを分かるチャンスがあって良かった。これからももっと教わりたい。男女のことについて話し合いができて良かった」、「私たちは皆、平等でなければなりません。男女のこと、教えてもらいました。これからは、娘も息子も平等と考えなければなりません」、「男の子のこと、女の子のことを学べた。話し合いをしながら学べた。大事な授業だった」、「性別について教わりました。勉強できてよかった。男女平等はどのようにできるか、理解できた」などが書かれていた。生徒たちが学校に戻った時に、どのような意識で子どもたちと接したらよいかを考えるきっかけになったのではないだろうか。期待したい。

④ネパールの入国カードの性別欄には(male/ female/ others)と書いてあったが、「othersとはどういう人々だろうか」ということから、**LGBTについて**講義をした。性的マイノリティーについて考えた。今や、5人に1人といわれている時代、クラスの子どもたちの中にもいるかもしれない。その子たちがいじめの対象になったりしないようにするには、どうしたら良いかを考えた。まずは、教師自身が性の多様性について理解しておくことが大事だ。生徒たちの感想には、「LGBTの人のことがよく理解できました。私たちの方から色々考えてあげる必要があることが分かりました。村に帰っても実現したい」、「トランスジェンダーのことは聞いたことがあったが、理解できていなかった。今回はよくわかりました。本当に勉強になった。学校に帰っても実現するようにします」、「この授業で沢山勉強できました。女性の権利、役割とLGBTについて勉強できた。学校に帰って、他の先生とも話をします」など、頼もしいものが数多くあった。

「エアロビクス」実施　　リズムに乗って身体を動かしましょう。　　2月8日実施　　中野ますみ

ネパールでは、仕事（職業）や家事労働での身体活動で、多くのエネルギーを消耗しています。しかし、学校で体育の授業がないこともあり、健康や体力の維持・向上を目的として、計画的・意図的に身体を動かす運動の効果や必要性を感じる機会が少ないと思われます。授業では、赴任地で機器が少ないことを考慮して、いつでもどこでも有酸素運動ができるように、皆でカウントをとりながら身体を動かしました。

最初は、座位で、カウントに合わせて身体の各部位を動かし、リズムに合わせて、皆で動作をそろえて動くことの楽しさ、気持ち良さを感じてもらいました。笑顔が見られるようになりました。

リズムに慣れたら、立位になり、音楽に合わせて動き、足踏みから前後・左右の移動、簡単なエアロビクスのステップを行い、身体全体を大きく動かしました。

生活活動以外の身体活動である運動を行うことで、心も身体も明るく、あたたかくなる効果があることを実感し、運動の必要性を考える機会になったと思われます。

生徒たちの感想からも、「踊りが楽しかった」、「運動が健康的だった」、「音楽も運動も楽しかった」、「楽しく運動すれば健康になることを学びました」、「これは、身体のためにとても良いと理解しました」、「音楽で身体があたたかくなって良かった」など、楽しみながら身体を動かすことができた様子が伝わってきました。

バリジュー先生とデュルガ夫人の日本滞在記

Surendra B. Bharijoo 記

2015年1月23日（金）；　1月22日（木）の夜21時に、カトマンドウの国際空港を飛び立ち、マレーシア経由、成田空港に23日の朝の7時15分ごろに到着。JNFEA事務局長の岩谷さんの迎えを受け、シャトルバスで、「スーパーホテルLohas東京駅」に着きました。午後は、JNFEAの新井場さんと東京駅周辺をバスで観光しました。

24日（土）；昼過ぎに、現在、日本留学中のSujata　Acharyaさんがネパールについて報告する会が、東京の練馬区の石神井保健相談センターで行われました。私たちも同席しました。Sujataさんが、見事な日本語で、スピーチをし、私と妻の紹介もしてくれ、私にも、自分の意見を言う機会が与えられました。

終了後、山下理事長宅を訪問。そこには事務所があり、設立以来の書類が置かれ、会議もそこで行われていることを知りました。その後、ポカラ・プロジェクトについて話しあいました。ビデオで、Sujataさんの大学の勉強ぶりを見ることもできました。Sujataさんの発表も素晴らしく、1年間の留学制度を作ったことは、正解だったと思いました。

25日（日）；終日、観光バスで、東京を観光。Sujataさんも、勉強が休みの日なので、同行。空までそびえる高い建物ばかりの東京の町は、近代的ですが、空は見えません。夕方は、ネパールのブトワール郡からきた人たちが、経営しているレストランで、岩谷さん、会員の石井さんや、毎年、ネパールに来て、さくら寮で､パネルシアターをやってくれているJNFEA監事の古宇田さんとネパール料理を楽しみました｡食後に､古宇田さんのお寺に行き、立派な仏像を見て、パネルシアターのトレーニングホールなどを見学しました。

26日（月）；文京学院大学を、理事長山下さんの案内で見学し、その後、文京学院大学理事長の島田燁子先生と歓談しました。文京学院大学とKCPとの間には、交換留学協定があり、その協定にもとづいて、さくら寮卒業生の中から、毎年一人、３年間の教員活動が終了した教員に、日本に留学し勉強するチャンスを与えてもらっています。この協定について島田理事長と話し合いをしました。この留学システムが僻地の女性たちにとって大きなチャンスであることを説明し、このプログラムの継続をお願いしました。私は、島田理事長のお人柄に深い感動を受けました。その後、川辺学長や鵜浦国際交流センター長ともお会いすることができました。その後、岩谷さんが校長を勤めていた文京第六中学校を訪問し、視聴覚教室、図書館、料理教室、会議ホールなどを案内していただきました。

その後、さくら寮のために長い間、ご支援をいただいている全国退職女性校長会･梅の実会の本部を訪問。私は、さくら寮の運営委員会委員長として、皆さんから支援していただいたお金は僻地の貧しい子たちの教育のために、有効に用いられていることを話し、皆さんからの質問にもお答えしました。皆さんが真剣で、よい雰囲気の会議でした。西田敦子梅の実会々長からは「支援が役に立っていることが理解でき、今後３年間、支援を継続する」約束をしていただきました。

夕方、15年前、青年海外協力隊員として、KCPに滞在した小澤みどりさんと再会してとてもうれしく思いました。

27日（火）；今日から2日間は関西旅行。新幹線の車窓から日本の景色を見て楽しみ、遠くから富士山も見れました。京都では、英語の観光バスで観光。京都は31メートル以上の高い建物は建てられないという規制があり、このために、京都の町では、空が見えました。

夕方、昔JICAの青年海外協力隊員として、KCPで2年間インテリアデザインを教えていた大坪ユミさんと会えることができました。彼女とは何回も連絡しましたが、ようやく連絡が取れ、名古屋からご主人の運転する自動車で駆けつけてくれました。本当に嬉しくお互い、昔話に花が咲きました。

1月28日（水）；赤尾建蔵さんが館長の竹中大工道具館（新神戸）を訪問。赤尾さんは、すべてボランティアで、さくら寮の設計、建設や管理の責任を持ち、現在も、さくら寮の維持・修理を担当してくださっている方です。ポカラによくいらっしゃるので、私も、会って話をすることが度々ありました。この館は、材木を使う仕事をするために必要となる沢山の道具が飾ってあり、それらを見て、私たちは、ビックリしました。この建物そのものが、材木を使ってできる素晴らしいモデルでした。その館には、ティーセレモニーのための部屋もあり、私たちのために、セレモニーが行われました。赤尾さんから、さくら寮にいてKCPの「BED（教育学修士コース）」で勉強を継続したいと希望する者に、支援ができるかもしれないという話があり、そのために必要な準備や方法を考えることが、私に任されました。その後、神戸の海を見学し、新幹線で、東京駅に帰着。

29日（水）；終日フリー。お昼ごろに甥っ子のSunilが、友人と来ました。その後は、買い物に行き、東京駅のにぎやかな町を回りました。午後５時ごろ成田空港まで行くバスに乗りました。

30日（木）：朝の６時１５分にホテルをチェックアウトし、バスに乗り成田空港に行きました。朝食を食べながら、見送りの新井場さんと日本の旅行の感想を話しました。搭乗手続き後、山下さんと電話。今回の日本訪問は、山下さんがおっしゃる通り、私たちにとってもJNFEAにとっても成果があったと話しました。

最後になりますが、訪問の際にお世話になったJNFEAの理事長はじめメンバーの皆さま、文京学院大学、梅の実会、竹中工務店、その他の皆さまに心からお礼申し上げます。

バリジュー氏とデュルガ夫人の日本訪問日程

1月 23日（金） 7:15　成田空港着（岩谷事務局長出迎え）「スーパーホテルLohas東京駅」泊。
17:30 ～ 19:30　紀尾井町「吉祥」でJNFEA歓迎会（理事長ほか10人参加）。
24日（土）13:30 ～ 14:30　NPO ひとネット主催の講演会（練馬区石神井）に参加。
15:00 ～ 17:00　JNFEA資料室見学。山下理事長宅で懇談会。
18:00　小沢みどりさん（JICA青年海外協力隊員としてKCPで働いていた）と再会。
25日（日） 8:00 ～ 17:00　英語ガイドつきの「はとバス」で東京観光―スジャータも同行。
26日（月）11:30 ～ 14:00　文京学院大学訪問および島田理事長表敬訪問。島田理事長・川邊学長主催昼食会。
14:00 ～ 15:00　文京区立第六中学校訪問。
16:00 ～ 18:00　全国退職女性校長会・梅の実会本部訪問。
27日（火）関西旅行へ（山下理事長同行）。京都を観光バスにて見学。
28日（水）竹中大工道具館（赤尾健蔵氏館長）を見学。赤尾氏と歓談。
29日（木）フリー　夕方成田へ。
30日（金）帰国の途へ。

小学校、幼稚園での教師体験感想

第４回交換留学生　スジャータ・アチャリア

私は、ふじみ野市立の三角小学校（1月8日~30日）、西原小学校（2月2日 ～ 20日）、そして、北軽井沢の町立大桑幼稚園、中央幼稚園（2月23日~3月6日）で教育実習をしました。

私は、学校の実習の時、毎日びっくりしました。ネパールでは、日本の学校のような所は見たことがありませんでした。毎日学校の授業を見てびっくりしました。建物はもちろん、教室の掲示，毎日の先生たちの会合、教材、音楽、体操の授業とか、生徒たちの態度、勉強の仕方、先生に対する態度とか、先生と生徒たちの関係、クラブ活動、自治会活動、先生の授業の仕方、保健室、全部すばらしいです。子どもたちはみんな、勉強の時、とてもアクティブでした。毎日、子どもたちは、進んで勉強をします。いろいろな課外活動もします。子どもたちに、とても良い勉強方法です。ネパールの教育方法と日本とは、とても違います。

私は、日本の学校と幼稚園をみて、いろいろな良いことを勉強できました。どうやって、子どもたちに教えると良いのかとか、学級経営とか、教室の掲示、先生の生徒に対する態度とか、教員会議、教材を作るとか、体育の授業の縄跳び、折り紙、などいろいろな新しいゲームなどを勉強しました。短い期間に、たくさん良い勉強ができました。

幼稚園の小さい子どもたちも、自分で片付けをするとか、昼食当番、掃除、また、いろいろなことを作ることもできます。幼稚園の実習でも良いことを、いっぱい勉強しました。

先生たちはみんな、自分の子どものように生徒たちに接していました。子どもたちは、みんな毎日楽しく勉強していました。実習は、毎日楽しくて面白かったので、はやく終わりました。先生のための勉強をいっぱいしました。ネパールと日本の学校の勉強の仕方は、とてもとても違います。私は、ここで勉強したことの中で、ネパールでできる良いことをネパールで教えます。日本の学校で勉強した良いことを、私は忘れません。そして、日本の良いこともネパールの子どもたちに教えます。

小学校と幼稚園で過ごした時間を絶対に忘れません。先生も、子どもたちも、とても親切でした。私にこの良い機会を与えてくださった皆さん、ありがとうございました。

JNFEA を支援してくださっている団体をご紹介します。

国際ソロプチミスト大阪―いずみ（略称・SI大阪―いずみ）

SI 大阪―いずみのメンバーの方々

国際ソロプチミストは、世界のあらゆる地域で、女性の地位向上を目的の一つとして、活動している非営利の奉仕団体です。SI大阪－いずみは、今年25周年を迎えましたが、認証以来ソロプチミストの目的に沿って奉仕活動を続けてきました。

山下泰子先生との出会いは、クラブの20周年を前に奉仕先を検討していた時に、先生の主宰するNPO「日本ネパール女性教育協会」が、堺市・平和貢献賞奨励賞を受賞された記事を読み、私どもの活動にヒントをいただけけるのではないかと考え、文京学院大学まで先生にお目にかかりに出向いたことに始まります。帰りの新幹線の中では、私たちの目的に合った支援は何かを相談し、ネパールの女性に下着（特に生理用品）を送ることを思いつきました。

当クラブでは、問屋とのルートがあるので、大量に購入できます。また会員の家に余っているタオル類を提供してもらい、支援金とともに継続事業として贈ってきました。

他にもミャンマーのHIV孤児施設の運営費支援（ジャパンハート）、国内では、DV被害者生活支援、障害児童への教育備品・幼児施設への設備品寄付、青少年の育成等を、この25年間続けてきました。

私たちは、これらの奉仕活動を継続していくために毎年チャリティバザーを開催し、大切な浄財をすべて奉仕しておりますが、参加されたお客様もクラブの活動を通して奉仕活動に参加してくださっています。その繋がりを大切にし、これからも有効な使途を考え活動していきたいと思っております。

（記：SI大阪―いずみ　北口純子）

SI大阪―いずみの皆には、毎年下着・生理用ショーツ・タオル等をご寄贈いただいております。これらのご寄贈品は、毎年入学時と卒業時にさくら寮の生徒たちにプレゼントしています。また、地方の学校を訪問するときのお土産として使わせていただいています。

全国退職女性校長会・梅の実会

福祉支援と日本ネパール女性教育協会

バリジュー氏と西田会長

平成27年1月26日（月）来日中のバリジュー氏（前カニヤキャンパス学長）が、山下威士氏（日本ネパール女性教育協会理事）、岩谷栄子氏（同協会事務局長）とともに全国退職女性校長会の役員会に表敬訪問をしてくださいました。その時の様子をご報告いたします。通訳は、日本の大学院で勉強しているロビンさんが、とても分かり易く説明してくださいました。

○バリジュー氏　皆さまには心から感謝しております。本日お会いできて嬉しいです。私は、ネパールの教員にも教えています。学校がある間は、このプロジェクトを責任をもってやることになっています。

昔は、大学には、男性しか行けなかったが、女性も、大学に行けることは良いことだと思います。山下泰子先生にお会いしたとき、ネパールの女性をどうするか考えておられて、そのきっかけでさくら寮を創り、女性の教育を一緒にやることになりました。このプロジェクトは、小さいけれども、ネパールにとって、とても役にたっています。

また、さくら寮卒業生教員が、ただ学校に通っているだけではなく、教える技術を身に着け、レベルアップをさせたことは、良かったです。女の子の就学率を上げ、教えるようになったのは、皆さんの支援のおかげです。今まで80人卒業しているので、後の20人の卒業も楽しみにしています。

全国退職女性校長会（梅の実会）5,800人の力が、ネパールの遠い村まで届いています。今まで５年間ご支援いただき、また、５年間も継続してご支援していただけることになって、嬉しいです。絶対に活かして使います。無駄にしないで、今までも支援をきちんと管理し、正しく使います。

関係者の皆さんに報告でき、お会いできて嬉しく思います。卒業生が、みんな田舎に帰って、どうすれば女の子も学校に来るか、工夫しています。ネパールに是非見に来てください。「さくら寮」から卒業していった子どもたちは、だれにも負けないです。国の事情で、上のライセンスを取ることは思うようにいきませんが、でも学生はみんな頑張っています！

○西田敦子会長　お会いできて嬉しいです。2007年度にネパールに行きました。その時の会員は、5600人ぐらいでした。本会は50周年を迎えて、何か支援をしたいと考えました。すべての女の子たちが学校に行くためには、女の先生が教えなければならない。5600人の会員に納得してもらうのには、自分が実際に行ってみることが大切と考えて、ネパールへ行きました。その時、2,3期生がいました。自分たちが実践してきたことをお話しました。

全国退職女性校長会福祉支援事業担当　平井迦葉子記

会員のみなさんが、自分たちの支援が、さくら寮の生徒達の役に立っていることが実感できて、本当に良かったとおっしゃっていただきました。また、ネパールの状況を、二人のネパール人から直接伺い、今までの漠然としていた事柄が全体的に繋がり、把握でき、とてもよく理解できたとの感想もいただきました。会場を移動してのコーヒータイムでフリートーキングの時間、会員のさまざまな質問に、直接お答えくださったことも幸いでした。

10年間の長い間、会員の皆さん方の大きな支援をいただけることは、この上ない幸せなことです。良い先生になって、女の子が一人残らず学校教育が受けられるように、さくら寮卒業生教員が地道に頑張って、リーダーシップが取れるよう養成しなければと、責任の重さをずっしりと感じました。

JNFEA事務局長であり梅の実会会員　岩谷栄子

さくら寮卒業生たちの現状

カニヤキャンパスの教員養成課程で2年間、教員になるための学業を修め、毎年10人の卒業生が巣立ち、今年5月で80人の卒業生教員が誕生します。出身地の小学校で3年間を勤めあげた後の様子をお伝えします。

1期生の10人は、みんな結婚し、大学院や大学に通いながら、充実した人生を送っています。5人は、小学校、中学校の先生を継続しています。そのうち3人は、2013年5月、17年ぶりで実施された70倍ともいわれる難関の教員採用試験に合格し、また、1人は、すでに政府雇用の先生として、安定した給与をいただきながら活躍しています。また、1人は、政府の福祉関係の仕事をしながら、ネパールの女児のための仕事を続けています。

2期生は、3人が教員として継続しています。そのうち2人は、政府雇用となりました。1人は、村の雇

用を得て続けています。8人は、結婚しました。カトマンズの大学院で勉強しながら、次のチャンスを待っている人もいます。

3期生は、3人が教員を継続しています。そのうち1人は、教員経験が4年目と少ないにも関わらず、難関の採用試験を突破し、政府雇用となりました。2人は、韓国などのNGOの支援を受けて教員を続けることができました。残りの7人は、子育てに追われながらも、教員採用のチャンスを待っています。

4期生は、教職課程トップで卒業した1人が、政府雇用となることができました。卒業早々に結婚し、子どもを育てながら、受験勉強の期間は、塾に3か月通い、猛烈な勉強をして獲得した切符でした。その他、村の雇用で、4人が継続して教員をしています。給与が非常に低い私立の学校に異動した者も、1人います。

5期生は、当プロジェクトの支援が終了する3年目を迎えました。彼女たちの就職活動が、気がかりです。6、7、8期生は、当協会の支援が続いています。

JNFEAの支援が終わった40人のうち、現在教職（政府役人も含め）にある人は、17人となります。

2013年9月に現地マネジャーのクリシュナ氏の情報によると、それまで非常勤で働いていた教員が採用されなかったことに対して、デモをしているということでした。

2013年に、17年ぶりに行われた教員採用試験には、その間、村やNGO支援の教員は、待ってましたとばかり大挙してこのチャンスを逃すまいと受験をしたので、1万人そこそこの採用に対して、70万人近い受験者となったのです。教師経験の浅い6人のさくら寮卒業生が合格したことは、奇跡としか言いようがありません。したがって、今後毎年実施するという政府雇用の教員採用試験が行われても、教員経験の長い人、大学院を修了した者からの採用が優先されるとのことです。さくら寮卒業生の政府雇用は、大変厳しい道のりとなりました。

われわれは、「日本の教育の良さを広めてほしい」という願いで、フォローアップセミナーや指導訪問を続け、資質の高い人材を育成してきました。この努力が結実できるよう、今、必死に今後の支援の在り方を模索中です。みなさんのご意見もいただけたら幸甚です。

岩谷栄子（事務局長・フォローアップセミナー担当）

教員生活について

卒業生たちの消息

―フォローアップセミナー2014報告書から―

シタ　ギミレ　1期生

先生となって7年目となり、責任を感じる、子どもとは楽しく付き合うことにしている。お話をしてあげたり、時には携帯で音楽を聞かせたりなど。清潔、身だしなみをきちんとすることなどは、親にも話している。また、子どもたちの話を聞いてあげることが大切。子どもたちのクラブなども作って活動した。

（政府採用試験に合格した）

アンジャリ　シン　2期生

問題は、先生たちと相談して解決するようにしている。言うことを聞かない子は、リーダーにして、責任感を持たせると効果的である。

スシラ　タマン　3期生

韓国のNGOの教育関係で働いている。大きな問題があった。家庭に事情がある子で、勉強はしたいけど、授業には出たくないという。母親と相談して、連絡を取りながら、個人的に勉強を教えたら、SLCに受かった。先生方はそのことを評価してくれた。

カウシラ　ブダ　トキ　3期生

教室の中が汚いので、掃除させようとしたら、だれもしない。根気よく指導したら、みんなが掃除するようになり、「新しい先生は良い先生」といわれるようになった。（政府試験合格）

パダマ　クマリ　ブダ　4 期生

先生たちと相談して新しい校舎を作っている。教育委員会の支援で、トイレ、水道を作っている。（政府試験合格）

ラクシミ　デブコタ　5 期生

8 年生まである学校で教えている。7、8 年生に性教育をしたが、恥ずかしがっていた。トイレの使い方も分からない子がいるので、指導した。（村では、近くの林ですましている）

カマラ　ダンギ　6 期生

経済的に困った家庭が多いので、学校に来ない子に対して、おやつをあげたりしている。親は仕事に行くので、子守などで学校に来ない生徒がいる。トイレが足りない。3 年後の就職継続は難しい。

ディパ　ビスタ　6 期生

学校に行っても仕方ないと考えている親がいる。そのうち、2 人の子どもへの取り組みが成功し、学校へ来るようになった。

スリジャナ　ブダ　6 期生

学校が古くて倒れそう。教材が足りない。学校に来ない子がいる。

ビパナ　ネパリ　7 期生

最初の学校では授業をさせてもらえなかったので、学校を変えた。でも、校長とは良い関係でない。年令の高い子どもがいる。

アスミタ　ボホラ　7 期生

現地の言葉がわからず苦労した。子どもを学校に行かせない親がいる。

ビナ　ロカヤ　4 期生

先生はどうして棒（むち）を持たないのと言われた。他の先生たちは、棒を持って授業している。学校が汚いから掃除しようといったら、職員室が汚いから仕方ないと言われて、反省！
有線ラジオ放送局で、アルバイトもした。学校に毎月 500 ルピー寄付した。現在は、私立学校で教えている。

スシラ　ラワット　5 期生

先輩の先生たちのなかには、学校をさぼる人もいるが、私は真面目に通っている。3 年後の就職継続のことを考えている（2015 年）。
学校で、植林したり、地震対策も教えた。村の行事に女子も参加させたりした。

ビパナ　BK　6 期生

先生の中には、忙しいから授業を代わってくれというの人もいる。子どもは、授業中おしゃべりしたり、いなくなる子もいるので、授業の最後に出席をとった方が良いのではと実践している。

アラティ　ポウデル　7 期生

子どもたちが、言うことを聞かない。ある先生が、試験の時、合格できない子どもの答案を直して合格させたりしている。教育委員会に報告したい。

ラクシミ　ダミ　7 期生

自分が教わった先生と、話が合わない。教員同士が協力的でない。子どもたちも言うことを聞かない。生徒に自分と同じくらいの年令の子がいてやりづらい。

Topics & News

12年生の教育実習

１月18日から1か月にわたり、近くの小学校2校で、12年生10名が実習をしました。はじめて生徒を教えるので、緊張していたようです。国語、英語、理科、保健、算数、体育などの教科を教えたとのことです。KCPでは、教科の実際の教え方については、指導していません。彼女らは、さくら寮に日本からくる先生たちが実践してくれる教え方や指導方法を覚えていて、工夫しながら実習したとのことです。教材も自分で考え、画用紙やマーカーペンなどを使ったり、折り紙やパネルシアターなども実演し、子どもを飽きさせない授業をすることを学んだようです。

練馬区石神井にあるNPO法人「ひとねっと」主催の国際交流会に参加

1月24日（土）午後1時30分から、NPO法人練馬区障害者福祉推進機構に属するグループ「ひとねっと」主催の、「第20回国際交流事業」に、スジャータと副理事長の新井場が参加しました。この機構は、障害者の就労支援や援助事業を行うことを目的とし、「ひとねっと」はその中の女性たちが運営するグループとのこと。これまでに、いろいろな国の方をお招きし、お話し会や音楽会を開催してきています。3年前には、同じ区の豊玉地区のグループの主催の国際交流会に、当時来日したばかりの、ラルマヤ・ブダと新井場が招いていただいて、講演とダンスを披露したことがあります。今回は、スジャータも、日本語がかなり流暢で、持参の手作りの紙芝居で自分の村やネパールの紹介をし、ダンスを披露しました。新井場は、ネパールの文化遺産や風習などについての紹介をしました。前日に来日されたバリジュー先生ご夫婦も参加していただき、ご挨拶、そしてネパールのお話しをしていただきました。偶然だったのですが、国際交流事業として、的を得た参加だったのではないでしょうか。沢山の質問もあり、バリジュー先生がいらしたおかげで適切な答えもできました。30人ほどで満員の小さい部屋でしたが、ネパールの国を知っていただくうれしい企画でした。

日本文化を学ぼう　　スジャータの体験

毎年チャリティコンサートを開き、収益の一部をJNFEAにご寄附くださっている、国際ボランティア「みなと」グループのメンバーの中には、お茶、生花、着付け、書道などのベテランがいらっしゃいます。3月19，20日そして23日にわたり、スジャータにこれらのご指導、体験をさせてくださいました。

外国の方々も交えた教室で、スジャータは積極的に参加し、生花などは、横浜の新井場宅に帰ってきても、庭の花を採ってきて生けるという熱心さでした。書道は、日本字で「寿地安多」と自分の名前を書いてもらい、懸命にまねて書いていました。

新しい先生で絵画教室が始まりました

ネパール在住だった絵の先生、白井先生が日本に帰国なさってから、絵画教室がお休みでしたが、4月から新しいネパール人の先生による絵画教室が始まりました。実は、寮母マンジュさんの弟、Vijayさんは美術の先生なのです。ネパールの小学校の教科書には、美術のページもあるのですが、専門の先生がいないので、指導できないでいるようです。情操教育を大事にする日本です。教科書に沿った美術指導をしてもらう

ことにしました。

ニュースレター 18号への感想―世界のトイレ事情

ニュースレターは興味深く各ページ隅々まで目を通しました。特に、福島進氏の「卒業生の赴任地訪問」には、その苦労と献身に驚きを禁じえませんでした。現在、小生は、古代のトイレ事情の考察をしているところなので、良い報告を得たと喜んでいます。現在でも、世界でトイレの無い人口は4割もある由で、アフリカやインドで幼少児の死亡率の高いのは、そこいらに散乱する糞便による不衛生によるものとの報告もあるようです。『続日本紀』によれば、持統天皇が宮処の悪臭を戒め、畑に撒くよう詔を出しているくらいですから、事情は同じようなものだったでしょう。

（チャリティ―ツアー―に参加なさった伊藤誠三さんが、山下理事長にあてた手紙の一部を引用させていただきました）

チャリティーツアーへの感想　　**川島　瑠璃**

20年以上も前から山下さんにネパール旅行のお誘いを受け、いつか連れて行っていただきたいとの夢が、ついに昨年かないました。11月4日からの11日間の「最高のネパール」旅行でした。満月のエベレスト、エベレストビューホテル滞在、マニリンドウ祭り、ポカラとサランコットの新ホテル建設現場見学、さくら寮の可愛らしい生徒さんたちとの交流など、山下さんのご経験の積み重ねに加え、ヒマラヤ観光の丸山さんの献身的なアレンジで成り立った超特別旅行でした。その上、連日抜けるような濃紺のネパールブルーの好天と、ヘリコプターやプロペラ機のキャンセルもないという強運に恵まれました。

何よりラッキーだと個人的に感じたのは、男性6名、女性9名の参加者が思いやりのある明るく気持ちのいいグループだったこと。事前の説明会、青木村での懇親会などで、顔見知りの機会を作っていただいていたことも本当に良かったと思います。心に残る楽しい旅でした。大変お世話になりました。

ピアニカの寄贈

大阪堂島ロータリークラブから新品のピアニカ10台の寄贈がありました。5台は、昨年11月のチャリティーツアー―に参加された川崎全司氏と川村俊明氏が、さくら寮訪問の際に持参してくださいました。あと5台は、大泉資料室に送っていただきました。これらは、今年７月に入学する最後のさくら寮第10期生10人が頂戴します。ありがとうございました。

SKYPEで交信　地震後のさくら寮の様子

寮母マンジュさんとさくら寮担当の新井場は、2日に1回は、交信しています。寮生の様子や予定などについて連絡し合います。時に雑談などで1時間に及ぶこともあります。当方は、在宅の時は、常にonにしてあるのですが、ネパールは停電があり、こちらの思うようにはつながりません。

地震の影響で、25日以来ずっと全国的に休校状態です。マンジュさんによると、生徒たちは、予定されていた年度末試験も無期延期、卒業式も延期という状態で、緊張感が解けて、「村に帰りたい」と言っているとか。バリジュー先生の「ダメ！留まって勉強しなさい」の一声に「ハイ」と緊張。

Nepal あれこれ ・・・教員採用試験について（続）

2013年に17年ぶりの政府雇用教員試験が実施され、さくら寮として出身者の応募者36人のうち、6人が合格しました。（ニュースレター　No.18で既報）その後、毎年実施するという噂もありましたが、昨年は実施されませんでした。そして、今年、突然、教員採用試験が実施されるという話が、さくら寮から知らせてきました。いったいどんな事情かを調べてみました。

ネパールで発行されている英字新聞によると、以下のようなことが、書いてありました。横浜在住の会員、阿出川俊夫さんにご協力いただいて、以下のようなことがわかりました。参考にした新聞は、Katmandu Post（4月3日、11日）、とThe Himalayan（4月5日）です。

『Katmandu Post』4/3

・教育省は、政府採用教員の高等学校、中学校の空席人員を募集する。3,000名以上。空席は、2006年4月24日に不足していた人数に対応する。
・また、空席の大多数は、教育省権利濫用調査委員会が、現教員が、教員資格証明証を持っているかどう

かを調査したところ、教員が多数辞職した（2014年9月~2015年2月までに、1796名）結果生じたものである。

『The Himalayan』4/5

・上記と同内容のほかに、空席の数については、4月に中・高等学校の人数、8月に小学校の人数が発表される予定。
・極西部地域の中学校の空席は、135、高校115、中西部地域では、中学校226、高校155である。
・2013年に17年ぶりに実施した政府採用教員試験は、応募者約50万人に対し、予定採用人数は13,059人であったが、面接試験にパスしたのは、12,743人であった。

『Katmandu Post』4/11

・政府雇用教員採用試験に、教員免許証を持っていなくても応募できるという政府の通達は、教育法第1971条に違反する。教育学を専攻し、免許証を取得した者（60万人以上とのこと）にとっては不当であるとの訴状が、最高裁に申し立てられた。
・教育省は、教員不足を理由に、教師採用方法を緩和すると決定した。
・今年から、政府は、初めての試みとして、英語、数学、科学、農業、エンジニア、ITなどの分野の有識者も教員採用試験に応募しても良いと決めた。しかし、これらの応募者は、最低10か月の教員研修を受ける義務がある。
・今回の募集人員は、中高等学校あわせて3,186人、高等学校1,326人、英語教師が最も多く838人、国語218人など。小学校については、8月にわかる予定。応募者は、5月6日までに手続きをすること。試験は、6月26、27日。
・このほかの問題として、2006年4月26日以前に雇用したテンポラリーの教員は、継続して雇用すると政府と合意をしていたので、約束違反であるとの訴えが寄せられている。

【理事会コーナー】

JNFEA10周年記念誌の発行について

2006年から始まったJNFEAの活動も、来年2016年に10年目を迎えます。今年、第10期生を迎えて、彼女たちが卒業するのが、2017年、さらに彼女たちの教員期間の給与補助が、2020年まで。

そろそろ、この活動も終盤を迎えることになります。この活動の理念をいかにしていくかを、現在検討中ですが、2011年に5周年を記念して『さくら寮開設5周年記念』誌を発行しました。その第2段として『さくら寮開設10周年』（仮）記念誌を発行するべく、現在編集中です。

JNFEAの活動を“参与”としてご協力いただく方のご紹介。

思えば来年は、1996年の「ネパール女性の教育を考える会」発足から20年、2006年の「さくら寮」開設から10年に当たり、ポカラで10周年記念行事をいたします。本年6月をもって80人の「おなご先生」が巣立ち、7月には最後の第10期生をさくら寮に迎えます。

100人のおなご先生を養成するプロジェクトが、いよいよ最後のコースに入ったこのとき、発足以来、当協会の運営に多大な貢献をしていただき、現在も引き続き会員を継続してくださっておられる次の方々に参与として、これからも当協会の活動を見守っていただくことが、理事会で決まりました。

役員一同、気持ちを一層引き締めて当協会の運営にあたる所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。　（理事長：山下泰子）

参与の皆様　（50音順）

磯 公美子様、木村 晴也様、島本 純雄様、中田 美子様、水野 育成様

ＪＮＦＥＡ活動報告

11月
・17日　ふじみ野市教育委員会挨拶　ふじみ野市
・19日　HP編集会議　コンパートメント東京中央
・24日　第12期第4回理事会　文京学院大学
・27日　HP更新　コンパートメント東京中央

12月
・11日　都　認定書類相談日　都庁
・13－18日 スジャータ　関西旅行
・15日　ニュースレター発送作業　二子玉川
・19－20日スジャータ　ホームステイ　新井場宅
・22日　スジャータ　大阪堂島ロータリー訪問　横山宅
・24日　ふじみ野市立三角小学校訪問
・28－1/5日 スジャータ　ホームステイ　深田宅

1月
・ 7日　スジャータ　文京学院大学　賀詞交歓会出席
・ 8日－29　スジャータ教育実習開始　三角小学校
・11日　HP更新　コンパートメント東京中央
・13日　岩谷　西原小学校挨拶　西原小学校
・15日　岩谷他2名三角小学校訪問　三角小学校
・18日　さくら寮12年生教育実習開始
・20日　活動推進会議　大泉資料室
・23日　バリジュー氏　来日歓迎会　紀尾井町
・23日　スジャータと深田が大井小学校授業参観大井小学校
・24日　スジャータと新井場が講演会参加　石神井保健相談センター
・25日　バリジュー氏　はとバス東京観光

・26日　バリジュー氏　文京学院大学表敬訪問
　　全国退職女性校長会表敬訪問
・27日　岩谷　三角小学校訪問
・28日　バリジュー氏　関西方面旅行
・30日　バリジュー氏帰国
2月
・ 2日　スジャータ　西原小学校実習
・10　　山下理事長、かながわゾンタクラブ講演会
　　横浜インターコンチネンタルホテル
・11日　HP編集会議　　コンパートメント東京中央
・20日　スジャータ　西原小学校
・22日　第12期第5回理事会　　文京学院大学
・25日　一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会の社会貢献基金助成金申請相談　　竹中工務店
・28－３/1日　今後のJNFEA活動について
　　北軽井沢ラムロ
3月
・2日　[草の根技術協力事業・制度見直しに係る地域NGOとの意見交換会]　　JICA市ヶ谷
・17～26日　スジャータ新井場宅ホームステイ
・20、23日　スジャータ、みなとグループ主催の会へ出席
　　（着物着付け、生花、お茶、習字）
・24日　活動推進会議　　大泉資料室
・26日　スジャータと新井場がパネルシアター公演会へ参加
　　スジャータ、ドームふじみ野へ
・28日　千代田・中央退職校長会でスジャータ講演
　　東京コンパートメント会議室

さくら寮通信

11月
・ 1日　ダサイン休暇が終わって、寮生が、寮に戻ってきた。
・ 2日　ＫＣＰの授業が始まり、寮生たちは、休暇中の宿題を提出。寮母による英語の授業も始めた。
・11日　山下理事長が、友人とともに到着し、寮で歓談。
・12日　山下理事長、チャリティーツアーの一行17人が、夕方到着。寮生にたくさんのプレゼントをくれた。夕食をともにし、ネパールの歌と日本の歌で踊った。
・15日　“Santi Forest”へ遠足、早朝に出発。寮生たちは、楽しんだ。
・16日　早朝、中国人女性が来て、寮生にヨガを指導してくれた。
・22日　KCPの1学期の試験が明日から始まるので、寮生は皆勉強している。
・29日　KCPの1学期の試験が終わった。寮母とともに映画館へ行ってネパール映画を観た。
・30日　KCPでは、24周年記念日を前に、いろいろ発表会兼競技会を行っている。
12月
・ 1日　KCP での試合に向けて、学生たちは、バレーボールの練習。
・ 5日　KCPの新しい学長さんにJNFEAの活動を説明した。
・ 8日　KCPの開校記念行事の日で、全員が参加。Laxmi Pujara（7期生）が、教育学部でトップの成績を修めたとして表彰され、報奨金12,000ルピーが支給されたので寮母が代理で受け取った。
・ 9日　JICAのボランティア3人が訪問。学校経営、数学の授業、子どもたちのためのゲームをいくつか紹介。寮生たちは楽しんで授業を受けた。
・17日　数学の授業について会計担当のクリシュナ氏と相談。新たにKCPの近くの小学校の先生が、今月21日から毎日8時～9時に授業をしてくれることになった。
・21日　今日から数学の授業が始まった。寮生たちは、新しい先生の指導に満足した。
・24日　寮母が、11年生に「さくらさくら」と「いつまでも」の歌を指導。
・25日　今日はクリスマス休暇。クリシュナ氏が11年生をフェワ湖へ引率。
・27日　休日。ガスが空になった。裏庭から薪を集めた。
・31日　今日からKCPは、2週間の冬休み。寮母が、引率し、レイクサイドでの新年祭へ行った。
1月
・ 1日　KCPは、冬休み。プロパンガスが不足しており、「ガス節約生活」をすることになり、みんなで寮の裏の木を切った。夜、寮母が、英語の授業をした。寮生たちは、自己紹介が出来るようになった。
・ 9日　Santi Stupaへピクニック。
・10日　英語の授業を2時間した。
・11日　12年生の1ヶ月の教育実習に向けて、5日間のオリエンテーションが始まった。
・16日　冬休みが終了、11年生は、KCPへ通い始めた。
・18日　12年生の1ヶ月間の教育実習が始まった。Bal Mandir Primary Schoolで４人、Kanya Schoolで6人が実習する。
・19日　寮生は、朝、数学の特別授業を受け、夕方は、コンピュータ授業を、夕食後に、寮母が英語の授業をしている。
・21日　今日はグルン族の Lhosar の祭日である。グルン出身の寮生たちは、ポカラの親類を訪問した。
・22日　昨年5月に11年生が受験した、高等教育局の統一試験の結果が発表になった。幸い9名の寮生が好成績で合格した。Karuma Pal は、第1レベルで、他の8人は、第2レベルで合格。Srijana Bohoraは、保健科で不合格。英語は、幸い全員合格。Srijanaは、1ヶ月以内に再受験しなければならない。
・24日　夕方、ピアニカのレッスン。
・25日　学問の神Saraswati Puja の祭日で、寮生は皆、寺院へお参りに行った。
2月
・ 1日　クリシュナ氏とマンジュ寮母は、寮生の教育実習を参観。寮生たちは、一生懸命指導をしていた。
・ 2日　12年生は、教育実習中だが、朝は数学の特別クラス、夕方は英語の特別クラスがあって、多忙だ。
・ 4日　11年生と12年生の英語の勉強が、夕方に指導センターで今日から始まった。このために寮母による英語授業は中断。
・ 6日　吉田英子理事と中野ますみさんが、寮に到着。寮生全員に会い、女性であることについて感じていることを話した。
・ 7日　吉田英子理事が「女性と性について」の授業をした。自立にむけてとても良い授業だった。寮生たちは、自分たちがいろいろ多くの差別を受けていることを理解した。
・ 8日　朝、吉田英子理事が、ジェンダー（性）について1時間の授業をした。
　今村美知子理事・今村務氏夫妻が到着。卒業生のラルマヤとラクシミが寮に来た。
・ 9日　朝、今村務氏が「こどもの歌」の授業をした。
・10日　Bharijoo氏が、寮に来て、今村夫妻に会った。
　卒業生のラルマヤとラクシミは、吉田英子理事とクリシュナ氏とともに、Pyuthan郡に向け出発。
・11日　今村理事の日本の友人たち6人が、寮を訪れ、寮生に会い、贈り物をくれた。
・14日　今村理事が、性教育の授業をした。女性に必要な学習内容で、寮母が、ネパール語に通訳した。ネパールの少女にとって、とても大切な授業だった。ネパールでは今まで、大人からも先生からも、このようなことに関して指導されなかった。
・17日　今村理事夫妻が、早朝に寮に来て最後の授業をした。音楽演奏もしてくれた。
・18日　12年生の教育実習は終了。
・24日　数学の特別授業が終了。

ご支援、ご協力ありがとうございます

2014年4月より2015年4月末まで、ご寄附、ご寄贈いただいた方々のお名前を掲載させていただきます（里親基金を一括でいただいている方も含みます)。

ここでは　正会員・賛助会員会費を除いた、ご寄附、ご寄贈の方に限らせていただきましたが、そのほか皆さまから、いろいろな形でのご支援、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

有本満恵　青木睦子　赤井文彌　麻生美穂　阿出川俊夫　阿部可子　綾部弘子　新井敏子　庵康雄　石川信幸　伊藤誠三　伊藤幸子　稲葉雅治　井上恵司　今村美知子(ラムロ募金)　岩谷榮子　上杉紀夫　牛江ゆき子　内野仁　大阪堂島ロータリークラブ　大塚柳太郎　大野清子　小川益司　奥野亨子　奥山秋生　小黒宏聡　小野寺幸子　織田真理子　加藤恒久　金井安五郎　神奈川ゾンタクラブ　亀永能布子　茅野文代　刈谷もと子　川島全司　川島瑠璃　川村俊明　小池美智子　古賀衛　国際交流ボランティアみなとグループ　国際ソロプチミスト大阪―いずみ　国際ソロプチミスト東京―府中　国際ソロプチミスト新潟　国際ソロプチミスト長浜　小久保毬子　小島照子　児玉元晴　小林弘　小林洋子　佐伯律子　サクマカオル　佐久間彬弘　佐藤忠三　実松皖　佐本裕子　島田燁子　島田教子　上楽喜代(故人)・須田道子　鈴木靖国・哲子　鈴木田祐子　鷲見八重子　瀬尾真喜子　全国退職女性校長会(梅の実会)　高木泰子　高瀬純子　田上和子　高見沢隆多賀谷ひろ子　竹田智恵子　田中綾子　田中千恵子　田中雅博・悦子　中田美子　永谷京平　中橋美智子　中山慶恵子　奈良澤好子　西田鏡子　根森健・桂子　野崎光枝　芳賀美沙子　浜中康二　早川久恵　板佳奈子　東出直子　ヒマラヤ観光開発(株)　深田洋子　福井直矩　福島進　増渕民子　松崎和子　松波勝弘　丸山和郎　丸山節子　水出稔　三谷量子　宮坂洋子　宮原巍　三輪正江　森豊吉　門田峻徳　柳澤日出子　山口洋子　山下威士　山下泰子　山田好秋　山本育三・佳寿子　山本淹子　横手仁美　横手靖彦　横山賀壽子　吉崎トミ子　　敬称略

編集後記

ようやく原稿をまとめて印刷に出したら、地震です。学校が休校になり、一番大事な年度末試験がいつになるかわからない。修学旅行は取り止め、卒業式はいつになるかわからない。さくら寮生たちは落ち着かない。卒業式に出かける予定だった会員たちも渡航のキャンセル。予定原稿を急きょ差し替え。義捐金の募集もはじまる。このニュースレター発行は総会前に予定している。地震のニュースを聞きながら、大変に忙しく、難しい19号でした。相変わらず盛り沢山です。　　新井場貞子

余震におびえる生徒達をを広間に集めて雑魚寝

郵便振替口座　00130－4－370983　（口座名）NPO法人日本ネパール女性教育協会

個人会員：3,000円、個人賛助会員：10,000円、学生会員：1,000円、法人賛助会員：50,000円（いずれも年会費）

里親基金：月額5,000円、年間60,000円、５年間合計300,000円（ただし、月額1,000円より可）

認定 NPO 法人日本ネパール女性教育協会（JNFEA）

理事長：山下泰子

本　部：〒113-8668　東京都文京区向丘 1-19-1　文京学院大学

ポカラ寮：Sakura Dormitory, Kanya Campus Pokhara, Nadipur, Pokhara, Nepal

P.O Box 192　Tel:977-61-541649

事務局長：岩谷栄子 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-24-1-1001　Fax 03-6222-3824

E-mail: iwatani@r3.ucom.ne.jp　ホームページURL:http://www.jnfea.net/

編集委員：新井場貞子　岩谷栄子　佐伯律子　吉田俊吾　山下紗衣　　協力：井沢孝次　阿出川俊夫